

## 実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	<社会教育特講>事例研究
実践事例名(テーマ)	家庭教育と社会教育②(家庭教育支援)
事業主体(実施機関)	奈良市教育委員会
連携・協力機関等	公益財団法人奈良市生涯学習財団 <small>にみょう</small> 二名公民館
発表者	<small>やまだ りゅうたろう</small> 山田 龍太郎

期日 平成27年 8月 12日

## 内 容

実践事例：文部科学省委託事業 奈良市教育委員会主催 「地域育ち☆親と子の支援プロジェクト」

実施期間/参加者数：平成25年10月～平成27年3月末まで 延べ約700名(※託児の人数を含む)

事業回数：45回(準備会2回、全体会4回、委員会33回、講習会5回、映画会1回)

## 1 事業に取り組んだ背景(地域の現状、抱える課題)

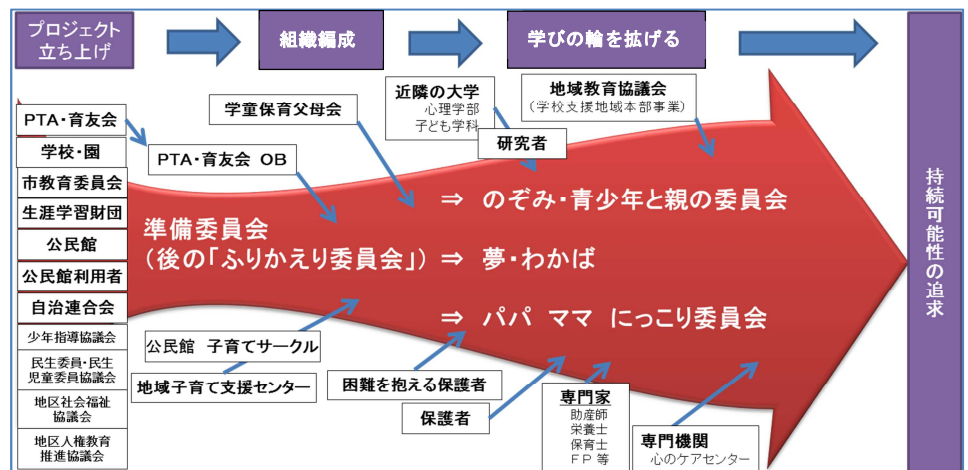
- (1) にみょう 地域は、奈良市(人口約36万人)の北西部に位置する。他市(大阪方面)への通勤通学者が多い。昼間人口が極端に少なくベッドタウンの様相を示す。新旧住民の意識ギャップから、地域コミュニティも希薄になりがちで、このことは家庭教育にも影を落としている。
- (2) 同地域の中学校も5年程前には“荒れた”時期があり、不登校や問題行動、補導件数も多かった。学校支援地域本部事業により地域教育協議会が結成され活発な地域教育活動を展開し、公民館でも中学生の集いの場を作るなど学校支援の仕組みを整え、子どもたちも徐々に落ち着きを取り戻したが、悩みを抱える家庭を地域と公民館とで教育的に支援するという課題が残った。

## 2 事業の目的、目指すべき成果

- (1) 地域コミュニティの活性化、地域に潜在する社会教育、家庭教育、子育て支援に関する教育資源の発掘と活用、学習の輪を拡大と持続可能な家庭教育支援の仕組みづくりを目的とした。
- (2) 「子育て・親育ち・地域育ち」を軸にした仕組みを作り上げ、子どもに関わる地域の大人(親も含む)が変わり、結果として子どもたちも健全に成長することを目指すべき成果とした。

## 3 事業の概要

市教委の呼びかけで地域と公民館が協力して学習的側面から家庭を支援する為に、各種地域団体や関係者、保護者を交えて組織化し、次の(1)～(4)の委員会を設立。各委員会の熟議を経て、課題抽出と解決に向けた事業プログラム作りをした。



#### (1)「パパ ママ につきり委員会」

新婚、未就園児を持つ夫婦を対象に、子育ての悩み事を専門家や先輩パパ・ママを交えて学習した。まず、「はじめの第一歩」第1回「パパがつくる離乳食+もう一品 先輩ママの出産ストーリー」を実施。第2回「映画『うまれる』上映会」には、目標の100人が参加。第3回「パパとする遊び+家族でにつきり撮影会」では、パパの子育て参加という課題にこたえた。

#### (2)「夢・わかば」

幼児期から小学校低学年の保護者とその家庭を対象に、子育ての悩み事について、専門家や地域の経験者を交えて学習した。近隣大学の協力で「子どもの脳の発達から学ぶ」、「どうしてる？ 家族のコミュニケーション」を開催。困難を抱える家庭へのアウトリーチを模索し試みた。

#### (3)「のぞみ・青少年と親の委員会」

小学校高学年頃から中学・高校生とその保護者を対象に、思春期の子どもとの関わり方についての共同学習に取り組んだ。投書箱「親へのつぶやき」、「私の経験談」を設置した。地域で様々な社会的資源と人材を発掘し、近隣大学と連携し「海のない奈良でイルカの話～イルカと心のリラックス」を実施。ワールドカフェ方式による親の集いの場「ほっこり話そう」も開催した。

#### (4)「ふりかえり委員会」

(1)～(3)の委員会からの数名に関係団体や専門家を加えて組織し、(1)～(3)の委員会からの報告・協力依頼を受け、地域の多分野からの助言と支援、事業評価を行った。

### 4 事業によって得られた成果と課題

#### (1)得られた成果 ～参加者から参画者へ～

この事業で生み出された企画の参加者が、後の事業の企画・運営をする参画者になった。学びあいにより地域の関連のグループ等が活性化し、人材の掘り起しにつながっていった。

#### (2)課題に向き合う ～改善への熟議～

企画は常に自発的自律的な熟議から提案されたもので、新規でチャレンジ的要素が強く成果予測は難しかった。その為、毎回の参加者数や満足度にバラつきがあったが、広報の方法等その要因分析についても相当な議論がなされ、その後の活動の改善につながった。

### 5 事業実施により構築できた取組プロセス、それを実現するためのノウハウ

#### (1)既存の地域団体と共に歩む

地域人材の活用という命題に対し、計画当初から地域の自治連合会やPTA、地域教育協議会などの地域団体を包括する組織とアクセスしたので、新しい教育資源の発見にもつながった。

#### (2)地域人材の自発性・自律性を担保する

集まった地域人材との徹底した熟議に重点を置き、学びあいの輪に身を置くことの楽しさ、充実感を持ってもらうことで、参加者を参画者に変える営みが自然にできるようになった。

### 6 今後、事業の継続・展開の具体的な方針・戦略

#### (1)事業運営手法の標準化：この“二名モデル”の取り組みは、基本的な体制を維持しながら継続。

地域人材や社会的資源へのアクセス法、熟議を中心とした事業法などを標準化していく。

#### (2)事業の広域化：奈良市はベッドタウン地域、旧村の田園地域、過疎化が進む山間地域などがあるため、地域性に応じた家庭教育支援をめざし、平成27年度からは新たに4つの公民館を加え、「奈良市家庭教育支援事業」に取り組んでいく。